

消費税について考える

大洗町立第一中学校 2年 関 彩巴

私が税と聞いて一番に思い浮かべるものは「消費税」だ。先日行われた選挙でも、各党が消費税の廃止や減税などを訴えていた。そしてその話をしていると、私の母が子供の頃は費税がなかった時があったと聞いて驚いた。そこで、なぜ消費税というものができ、今10%まで上がってしまい、またなくそうという動きが出ているのか知りたくなった。

消費税とは、商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金で、今の日本では10%の消費税がかかっている。そしてその税は、年金や医療費や介護そして少子化対策などに使われている。特に、最近では高齢化が加速している為、医療費や介護にもたくさんの税金が必要だと知った。私は、よくけがをして病院にかかり、薬も出してもらうことがよくあるが、マル福が使える為、医療費の負担が軽減されている。それも消費税のおかげだった。だから消費税をなくすことは、今の私達の生活では難しいのでは？と感じた。しかし、昔は消費税がなくても生活できていたのはなぜなのだろう？

昔は、国民の所得税中心で税制がされていたが、戦後から高度成長期以降に日本の経済・社会が著しく変化し、偏った税負担が生じたことで、国民が公平に税負担を受けようと間接税として消費税が導入された。また、もう一つの大きな理由として、高齢化社会への対応が必要だったからなのだ。3%で始まったものが今では10%まで引き上げられた。そして今の時代に、また大きな生活の変化や世界的物価高や自然環境の影響により、新たな改革をしなければいけない時なのかもしれない。だから、なくそうとする動きや減らそうとする動きにゆれ動いているのだろう。

税の事を調べなければ、10%の消費税は、物も安く買えずに不便だなと思っていただけだが、何に使われて、必要なのかを知った今は、消費税をまったく無くしてしまっただけは、自分達の生活に大きな影響が出てしまうことも分かった。

今までの私は、消費税に対して、余計なお金まで払っているような気持ちでいたが、消費税は私達の暮らしに欠かせない大切な物だと学んだ。けれど、今の物価高や生活様式の変化で私達の生活に負担になっているのも事実である。一部の人達だけでなく、私達国民全員に負担のある消費税だからこそ、もっと真剣に、今の日本に合った消費税率にすることが必要だと思った。その為に、私達がもっと税に関心を持つことが大切だと思った。